

■記念事業ピックアップ

市民で歌うふるさとの校歌

安曇野の自然や文化、子どもたちの健やかな成長を願った校歌は、地域や年代を越えて、市民が共有できる財産です。市内小中学校の校歌を通して、市の素晴らしさを再認識し一体感を高めます。

- 日時 2月27日(土) 午後1時から3時30分まで (開場午後0時30分)
- 場所 堀金総合体育館サブアリーナ
- 主催 「市民で歌うふるさとの校歌」実行委員会
- 入場 無料
- 出演 コール明科、安曇野混声合唱団、とよしな女声合唱団、ひいらぎコーラス、クリスタル・ハーモニー、小田多井コーラス、扇町コーラス、たまゆら歌の会、三郷小学校PTA「コーラスを楽しむ会」(出演順)
- 内容 市内小中学校の校歌の合唱
飯沼信義さんの講演 (市内5校の校歌の作曲者・安曇野市出身)

☎「市民で歌うふるさとの校歌」実行委員会
安藤さん TEL 090・8329・8611



■記念事業(3月の予定)

開催時期	事業名	開催場所
3月5日	学びのつどい(演奏会)(市)	堀金総合体育館
3月5日	ヒダノ修一 with 太鼓マスターズコンサート2016 in 安曇野(市)	穂高交流学习センター「みらい」
3月19日	あつみのジュニアクラシック音楽会(市)	穂高交流学习センター「みらい」

(市民) 市民の皆さんが、開催する事業に「市制施行10周年記念」の冠を付けて行う事業、(市) 市が開催する事業に「市制施行10周年記念」の冠を付けて行う事業、(市民提案) 市民の皆さんが自主的に行う活動を補助金により支援する事業(上限50万円、100%補助)や市民の皆さんと協働で行う事業

明科潮沢区矢越と筑北村滝上峡とを結ぶ国道403号の矢越防災事業の主要事業となる新矢越トンネル(延長1043メートル)の貫通式が1月27日、現地で行われました。当日は、発注者の県松本建設事務所をはじめ、市が加盟する国道403号(千曲安曇野間)道路整備促進期成同盟会を構成する沿線自治体の関係者など約110人が出席。

式典では、貫通点の通り初めなどが行われ、トンネルの貫通を祝いました。宮澤市長はあいさつで「地域住民の安全・安心な暮らしを支え、市と筑北地域の交流が一層進むよう期待します」と話しました。国道403号は、中信地域と東北信地域を結び、安曇野・筑北両地域の発展を支えてきました。また、県の震災対策緊急輸

送路に指定されるなど、重要な役割を担っています。現在の矢越―滝上峡間は、道幅が狭い上、急カーブや落石など危険箇所も多く、市をはじめ沿線自治体では、道路改良を要望してきました。事業は、今後、トンネル坑内工事や筑北村側の橋梁建設工事、取り付け道路工事などを行い、平成29年3月に工事が完了する予定です。



貫通点で握手をする筑北村関川芳男村長(右)と宮澤市長

■安曇野・筑北地域を結ぶ 新矢越トンネルが貫通

市と協働のパートナーである市区長会では「地域を考える研究会」を1月23日、市役所を主会場に開催しました。この催しは、地域コミュニティとしての区の役割を考え、区が抱える課題を市民自ら解決していく地域力向上を図るための情報交換の場として開催したものです。

当日は、各区の区長や役員の方など約350人が参加。宮澤市長は人口減少時代を迎え、今後のまちづくりに区の活性化が重要とし「各区が抱える課題解決に向け、情報を共有してほしい」とあいさつしました。また、市区長会の中田喜夫会長は「市民の身近なコミュニティである区の大切さを再認



分科会の様子(地域の安全は地域で守る・塩川原区「子供隊」の活動発表)

識してほしい」と参加者に呼び掛けました。全体会では、初代市区長会長を務めた河村佳次さん(穂高有明)による基調講演や、事例発表が行われました。全体会終了後、6つのテーマによる分科会も行われ、各区の抱える課題への問題提起や解決に向けて意見交換が行われました。

■各区の抱える課題解決に向け 研究会開催

市と市内で段ボール製品を製造する王子コンテナー株式会社長野工場(齋藤薫工場長・豊科)は1月27日、市役所で「災害時における物資提供等の協力に関する協定」を結びました。この協定は、災害発生時に市の要請に基づき同工場が製造する段ボール製の簡易ベッドや簡易トイレ、間仕切りなどを調達・

提供し、市がその費用を負担するものです。齋藤工場長は「企業の社会的責任を感じ、身が引き締まる思いです。災害時にできることを考え、今後も地域に貢献したい」と述べ、宮澤市長は「大規模災害発生時には避難所で必要なベッドなどが確保できます。市民の安全安心のため、今後も連

携を深めていきたい」とあいさつしました。今回の協定により、災害時、市の備蓄品では対応できない想定以上の避難者が発生した際に、避難所で使用するベッドなどの物資を迅速に準備することができま



調印を終えた齋藤工場長(右)と宮澤市長